

# 製本のススメ

Vol. 10

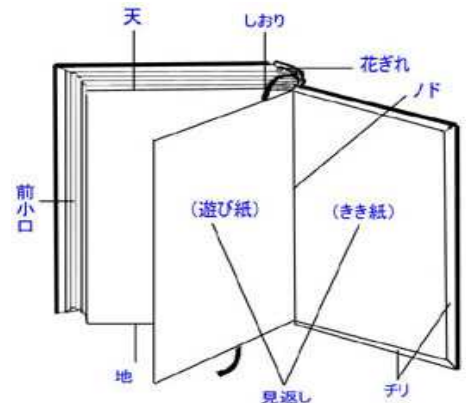
巷では既にクリスマスの用意も出来上がり 街のイルミネーションが今年も美しく輝きはじめました。プレゼントは決めましたか？あわただしい年末に向けて準備万端整えましょう。

今回は見返しのお話

高級な本と、少々高級そうに見える本には、たいてい 見返し紙が付いています 多くの場合本文の最初と最後の頁のノドへ3ミリ~5ミリくらいの糊しろで、二つ折りにした紙を本文の前後に貼り付けます。そのうちの表紙裏側へ貼ったほうを、見返しの「きき紙」又は「ちから紙(力紙)」と言い 残りの半分を「遊び紙」と言います。

本来 見返しは本文と表紙を繋ぐ大切な役割を担っていますので、用紙は十分に耐久性を考慮しなくてはなりません。

見栄えが良くても薄い紙は不向きですし、紙の性質上 アート・コート系はあまりお勧めできませんがカラーの時代に贅沢はいえませんが時代を反映し、写真や絵柄を印刷したり紙色を選んだり個性豊かな冊子に仕上げる事もできるデザイン性の高いスペースでもあります。



見返しは「きき紙」側を表紙へ糊付けする 경우가極めて多く、特に上製本ではきき紙側全体に糊をつけて表紙へ貼り付けるので 紙が糊の湿気で瞬時に伸びてしまう為 伸び率の少ないタテ目にとった紙を使う必要があります(ほら、今回も出てきました、紙目の話しは覚えていますか?)横目では伸びが大きく、貼る際にシワが出たり、乾いてからも本の形状を崩します。並製本でもノド側と小口側に 糊を入れるわけですから 仕上がった本の背中と小口が波打ち体裁の悪い本になってしまいます。(これは、見返しに限らず、本文へ貼り込む扉やペラも同様です)



## Tea break

牛の腰上部を使ったステーキを【サーロインステーキ】と言います。その昔 英国王のヘンリー8世が、ある日の夕食に食べたステーキのあまりの美味しさに、どの部分の肉かと尋ねるとロイン(腰肉)だとの返事。そこでヘンリー8世はこの美味しさに「貴族の称号を与えるに相応しい」と言って貴族称号の【サー】を与えてサー・ロインと叙したそうです。

by (株) 井関製本